

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 5 期）
開催日時	令和 3 年 2 月 2 2 日(月) 1 8 時 3 0 分～ 2 0 時 4 5 分
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 4 会議室 (W e b 会議システムを併用)
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) U 4 0 のこれまでの活動と今期の方針について (3) 自己紹介ワーク (4) 第 6 次高松市総合計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	穴吹会長、湯川副会長、熊野委員、二川委員、大石委員、 三木委員、棟近委員、若林委員、大崎委員、中村香菜子委員、 西森委員、林委員、松井委員、宮武委員
市職員 U 4 0	上原、四宮、藪下、齊藤、三好、平岡、佐々木、香西
事務局	長井局長、石川部長、吉田部長、西岡課長、宮脇補佐、 三浦係長、松下主任主事
傍 聴 者	9 人
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

1 開会

(事務局から開会挨拶)

2 自己紹介及び会長・副会長の選任

- ・出席委員及び市職員 U 4 0 から自己紹介
- ・穴吹委員が会長に、中村かおり委員及び湯川委員が副会長にそれぞれ選任された

【会長】

この度、会長の職をやらせていただくということで、大変、緊張しており

審議経過及び審議結果

ますが、メンバー間のコミュニケーションや組織の活動を活発にできるようサポートすることが、私が皆さんに貢献できることかと思えます。これから2年間よろしく願いいたします。

【副会長】

会長からもありましたとおり、私が大切にしたいと思っていることが一つだけありまして、コミュニケーションの質よりも量を大切にしたいと思っています。行政の委員会となると、格式張った形式がよくある形だと思うのですが、せっかく、異業種の方々が集まっているので、一緒に活発なディスカッションをしていきたいと思っています。

3 U40のこれまでの活動と今期の方針について

(事務局から配布資料について説明)

【会長】

「U40のこれまでの活動」についての事務局からの説明に質問がなければ、「今期の方針」について、私と副会長から提案がありますので、御説明させていただきます。御手元に「今期の運営方針」という資料がございますので、御覧ください。最初に、言い訳をさせていただきますと、先ほど選任されたばかりの会長・副会長がなぜこんなものが用意できるのかという話なのですが、予め、先ほど事務局の方からも御説明があったとおり、第4期はコミュニケーション不足という点が大きな課題になっておりました。その中でよいスタートを切れるために、4か月ほど前から事前の準備をさせていただいておりました。この方針については、組織として活動するための土台を作れるように設計をしておりまして、最初の6か月ほどの期間を想定して作っております。あくまで、皆様が主役であるということを念頭に、お聞きいただけたらと思います。

目的ですが、いきなり、我々の意見が入っているのですが、このU40という年齢制限がある、すごく明確なターゲットを設定した行政の委員会が存在するのは、全国でも非常に稀だと聞いています。そうであるならば、我々はこういった会を最大限に活用すべき役割を持つ、40歳未満の高松市民の代表という立ち位置ではないかなと思っています。U40メンバーは、各方面のいろんな業種・現場から来ていただいていますので、その代表あるいはハブとして、その先の人達に伝えられる、そういった活動ができたらいいなと思っています。2年間の任

期の中で、オフィシャルにこうやって集まる機会は、おおよそ10回ほどしかありませんので、先ほどの事務局説明にありましたとおり、ああいった素晴らしい事業というのは、10回で生まれたものではありません。会議と会議の間に個々に集まったりしてきたことによって、いろんな事業が予算化され、それが事業実施されて評価につながっているのだと思います。ただ、第4期の途中から新型コロナウイルス感染症の影響で、自由に会うということすらなかなか難しくなっております。そういった中で、我々が限られた条件の中で何ができるかということ念頭に作らせていただいております。

簡単に資料を説明させていただきますと、まずこのU40から、この会議室の中から、外の市民の方にいろんなことが発信できるようになったらよいなと思っています。そもそも創造都市って何なのか、我々自身もまだ理解できていないと思いますし、多様性って何だろう、将来も大丈夫なのかなといったところを、我々がここで積極的に市の方とコミュニケーションしながら議論していき、その議論の結果だけでなく過程も発信することで、いろんな方を巻き込んで関心を広げていくといったことができれば、非常に有意義な活動になるのではないかなと思っています。ですので、改めて資料の1番「高松を知る」活動をしたいと思っています。そのためには、まず我々が組織として育たないといけないので、メンバー間でもコミュニケーションすることが必要です。そして、資料の3番目の高松市民の方達については、いろんな高松に住んでいる方もそうだし、観光にいらっしゃる方もそうだし、外国人の居住者の方も、いろんな方が含まれていると思いますが、そういった方々が思う高松のよさや課題を拾い上げて議論することも、我々U40でできることだと思っています。

最後になりましたが、下のスケジュールで、第1回、第2回、第3回とあるのですが、先ほども申しましたように、6か月くらいを想定しております、これは仮ですので、御容赦ください。ただ、第2回については、おそらくこの内容でやらせていただきたいと思います。そして、ちょっと注目していただきたいのが、1回目と2回目の間に分科会というものを設けておりまして、こちらはオンラインで1時間から1時間半とかで、カジュアルに話す場を設けたいなと思っています。例えば、今日、この後に説明いただける第6次高松市総合計画についての話や自己紹介ワークで気になった人の話とか、ざっくばらんに深掘りしていく、感じたことを共有していく、そんな場を意図的に設けていきたいなと思っています。日がないもので、勝手に分科会の日を設定させていただいており、メンバーの方に御参加いただいているフェイスブックグループの方で御案内させていただきますが、とりあえずやっつけようと思っています。参加できなくても、もう

一度、設定するなど臨機応変にやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。この方針については、あくまで6か月の期間を想定していますので、その先に我々がどういう課題を持ち、どういうことをやっていきたいかということを議論しながら、第5期らしい活動をできたらと思っています。

【委員】

今日のこの後のことについて、方針というか内容をお聞かせください。

【会長】

本日の進行について、この後は、自己紹介ワークをさせていただく時間と、後は、高松市政策課の方に「第6次高松市総合計画」についての御説明をしていただきます。その後、質疑応答をさせていただいて閉会となります。

4 自己紹介ワーク

【会長】

それでは、次に、先ほど簡単に自己紹介をしていただいたところですが、お互いの活動内容などに、より理解を高めるためのワークショップを行いたいと思います。

(委員がお互いの理解を深めるためのワークショップを実施)

5 第6次高松市総合計画について

【会長】

次に、先ほどの事務局からの説明にもありましたように、本懇談会の役割として20年後、30年後のまちづくりを目指していくことが期待されていますが、そのためには20年後、30年後がどうなっているのかを知る必要があります。これを知ることによって、我々がどういう課題に向かっていくのかという同じ目線に立つことができると思っています。それで今回、高松市の将来的な課題を知るために、第6次高松市総合計画について関係課の方からお話しいただく機会を設けました。

(市民政策局政策課から第6次高松市総合計画について講義)

【会長】

ここで、只今の内容について、御質問がある方、挙手をお願いいたします。

【委員】

内容によっては、前からある課題だと思うのですが、その課題に対して、すでにしているもの、でき始めているもの、若しくは、効果を感じているものが既にありましたら教えてください。

【関係課】

人口減少に対しましては、これまでに複数の施策を展開してきておりますが、その中でも、大きな取組として立地適正化計画の策定が挙げられます。計画の概要としては、居住誘導区域等を設定し、人の居住を促進し人口を集めていくといったものですが、高松市では線引き廃止の結果を踏まえ、平成30年に立地適正化計画を策定したということが、今後に向けたワンステップ目だと思っております。その効果は随時検証していくこととなりますが、今後、計画を踏まえ、公共交通を基軸として、人を集めるなど、行政運営の効率を図りながら、個別の施策を展開して行くことで、様々な効果が出てくるものと考えます。

【委員】

それは中央商店街も含んでいますか。

【関係課】

そうです。計画では、中央商店街などのまちなかも含んでおります。

【副会長】

魅力あるまちにしていくということはとても大事だと思うのですが、個人的な考えでかまわないので、こういうふうなまちがいいのではないかといったイメージが、もし、御自身の中であつたら教えてください。

【関係課】

これから人口減少が進む中で、いろんな人がもっと様々な場で活躍できるような仕組みができたらいいなと思っています。例えば、全国にも事例があると思いますが、地方自治体の職員も副業ができるであるとか、それぞれが持つ能力を今

の職場以外の場で活用できるような仕組みや制度があれば、人口減少で不足する人材を補うようなこともできるのではないかと思います。そのためには規制改革などが必要かもしれません。今後、制度改革も含めて、そのような場づくりにつなげることができたらよいなと思っています。

【委員】

捉え方次第だとは思いますが、比較的マイナスに捉えてしまうようなところばかりがある中で、現状として、高松市でここがよいよって推せるところ、ここは改善している、ここはプラスになっている強みみたいなのところはありますか。

【関係課】

先ほどの人口推計でも御説明しましたが、周辺市町では人口減少傾向が強くなるのが想定されますが、それに比べると本市の人口減少傾向は緩やかになると考えられております。これは、本市が支店経済都市であるとともに、瀬戸内を始めとした観光資源、様々な事業者との連携など、本市の持つポテンシャルなどの強みがあると考えます。ただ、このプラス部分をもっと対外的にもアピールしていくことが必要だと思っております。

【会長】

U40という年齢制限のある組織で、いわゆる高松市の40歳未満の世代を代表して参加しているのですが、なかなか、行政の方と民間の方がシャッフルされてコミュニケーション出来る機会がないと思うのです。こういった機会や40歳未満の世代に、こういった動きがあれば、より、こういった市の施策が促進されるのか、はたまた、民間のやるべきことの第一歩が踏めるとか、そういったところがあると思っています、その中で、我々は会議室の外に波及するような活動をしたいなと思っています。例えば、私、高松市の市民プールがなくなる時に、「やめてくれ」と思ったのですが、背景にはこういうことがあるということを知らなかったことがありました。それを防ぐために、もっと早いうちに手立てがあったのではないかなとも思ったりして、そう考えると、自分事だなというふうに思ったのです。そういった点で、40歳未満の世代やU40に期待すること、進めたらよいのではないかなということがあればお願いいたします。

【関係課】

情報の在り方が一つ重要な点かと思っております、情報を発信する側と受ける側では、受ける側が積極的に収集しなければならないような形になっており、行政側から市民の皆様に必要な情報を、いかに積極的かつ幅広く、分かりやすく届けるのが課題だと思っております。これについて、高松市自治基本条例にも、情報共有の原則として示されておりますので、この考えに即した画期的なアイデアをU40の皆様にお願ひできればと期待しております。

【会長】

ありがとうございます。それでは、今、分かれている各グループで、只今の高松市の将来的な課題を聞いた上での感想を共有する時間を取りたいと思います。その後で、各グループの代表者から話をした内容について順番に発表いただきたいと思います。

(各グループで感想の共有)

【グループ1】

この班では、いろいろ出てきましたが、先ほどのスライドで関係課の方が話していただいた内容は、私たち市役所職員にとっては研修等で、ある程度知っていたり、他の皆さんにとっても、なんとなく、知っていることだと思うのです。知ってはいるが、関わっている意識というのは普段は薄いよねというところで、普段は、自分たちの仕事をこなすことで精一杯、これまでやってきたことをやるだけでもいっぱいいっぱい、そもそものやっていく方向や目標とかを、普段の仕事の中で共有するとか見直すということはあまりないのかなという話が出ました。そういう機会を振り返って見るとか、少し休んでみるとかのタイミングを持つことによって、モチベーションを上げていくことができるのかなという話になりました。

【グループ2】

私はこのグループで話している中で、個人的にそういう考え方もあるのだと新たな発見をしたことがあったので、その部分の報告をします。先ほどの説明の中で、女性の活躍という話が出ましたが、仕事をするという経済面の進出だけでなく、家で子育てをしてくれている、例えば、仕事をしている旦那さんがいて、その仕事をしている人のケアとして専業主婦をしている方がいたり、経済で貢献するだけでなく、ケアの面でも支えてくれている人がいるから、経済が成り立っ

ているという面にも目を向けるという話が出ました。個人的には、そういう面、そういう考えがあるのだということが勉強になった部分ではあります。

【グループ3】

主にマイナスの面について言われていたが、それを解決するために、例えば、家族の単位や地域の枠をもっと大きくしていけば解決していくのではないかなという話が出ました。あと、空き家問題も、私としては「空き家なんて宝物なんじゃないかな」と思ったりしました。高齢者が増えてくるということも、高齢者が住みやすくするためにはどうすればいいのかを考えて、施策を出して、若い福祉の関係者の方が移住して来て増えてくるのではないかということを考えてみました。また、個人の商店が強くなって、いろんな業種の方とか、いろんな属性の方が集まれるハブになれば、高松ももっと楽しくなるのではないかという話になりました。

【グループ4】

いろいろ話し合ったのですが、一番大事なところは密度かなという話になりました。都会と比べてみると、地方都市というのは人口密度が薄い部分がありますが、都会に比べてちょうどよい感じの密度が作れるというのが、地方都市の1つの魅力でもあるのではないかという意見も出て、その密度をどうやって維持していくことが大事なのかなという話になりました。また、それを系統的に見るに当たっては、位置情報を調べるアプリとかがあるので、その辺も活用していくと効果測定もできつつ、施策にも反映できるのかなという話もありました。

【グループ5】

いろいろな話が出たのですが、何よりも人口減少というところをマイナスに捉え過ぎないという点を話していて、例えば、介護人材不足も移住者を促進したり、海外から人を受け付けたりすることで改善される部分もあるでしょうし、空き家の増加も、その有効活用を考えたりすることで改善されるように思われます。ざっくりした話ですが、人口減少で盛り下がっている感をどう改善できるかというところだと思います。丸亀市でも、坂出市でも商店街の元気がなく、高松市も、買い物減で四苦八苦している人がたくさんいるという状況を、盛り上がっているように見せていくための施策というのが大事なのだろうなという話をし、人口減少というワードをあまりマイナスに捉えるのではなくて、細部を地道に解決していくべきではないかという話をしていました。

【グループ6】

きれいにまとめられなかったもので、話の過程をそのままお伝えすることになりますが、話の中で、そもそも、人口減少は絶対にいけないことなのかという意見が出てきました。逆に、増えすぎて困っている中国やアフリカ地域と比べると、高松は何がまずいのかという話になり、例えば、インフラが整わなくなることとか、市の立場からすると、人が減って税収が減ると目先のお金が減るということがまずいのではないかという話になりましたが、一方で、農業をされている方からすると、それによって使い手のなくなった農機具が手に入ることもあったりというような、プラスの面もあるのではないかという話も出てきて、いろいろ紆余曲折してタイムアップになりました。見方によって、決してマイナスだけではなく、プラスの面にも、今後、目を向けていくことはできるのではないかということでした。

6 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)